

夢再び

モンゴル恐竜調査隊

石垣 忍

「足跡化石みたいなものを見つけたんだ」とメインバヤル氏が話しかけてきた。今夏の日蒙共同調査の準備中のことだ。メインバヤル氏はモンゴル科学アカデミー古生物学地質学研究所の研究員である。

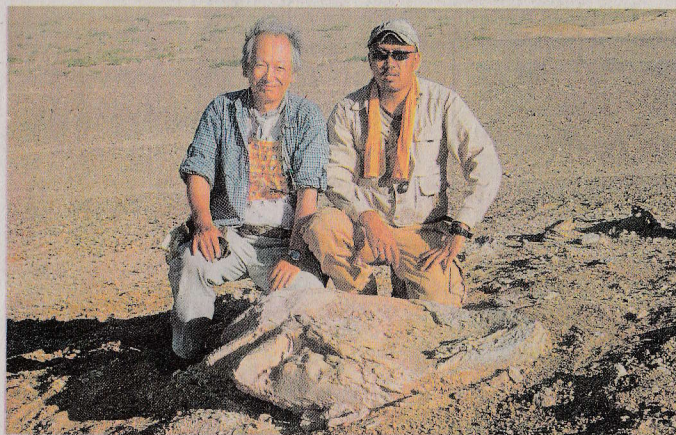
「どこで」と私が訊くと、「シヤルツァアの南の新産地。とにかく大きいんだ」とニヤニヤしている。

「本当に足跡化石かい?」「たぶん。でも自信がないから一緒に見に行つてほしい」「わかった。バイシンツァアに滞在に行つてみよう」

この会話が今夏の「世界最大級の恐竜足跡化石発見」の端緒となった。

メインバヤル氏は30代前半の若手である。10年前に初めて林原・モンゴル共同調査に参加した頃は大学生だった。科学アカデミーに入らずいぶん成長し、今はウランバートルの古生物学地質学研究所の若手幹部になった。野外調査のマネジメントは実に上手で頼りになる存在。今夏的共同調査ではモンゴル側の現場リーダーを務めた。そして、学術的には恐竜足跡化石を専門に研究を進めている。

世界最大級の恐竜足跡化石の前でメインバヤル氏(右)と私(8月)



⑪ 足跡化石発見のてんまつ

足跡研究では私の後継者でもある。

さて、現場に2人で行って、実物をひとめ見たとき、私は驚愕のあまり棒立ちになった。

「こりやすごいものを見つけたぞ。爪の跡もあるし確実に足跡化石だ。こんなにでかくて保存のよい凸型足印(足跡の窪みにたまった砂が硬化してできた『足型』の化石)は今まで見たことがない」

最初は自信なさげな顔をしていたメインバヤル氏は、私の言葉をきいて満面の笑みを浮かべた。

そのあと、私たちは手分けして周辺を歩き、日を変えて発掘を続け、大きな肉食恐竜の足跡や、風化した足跡を50

個以上見つけた。以上が今年の「最大級の恐竜足跡化石発見」のてんまつである。

モンゴルには、世界的な恐竜足跡化石産地のシヤルツァア(モンゴル語で「黄色い崖」の意)があり、「万」単位の足跡化石を産する。モンゴル側もその重要性に着目し、1・4^区に及ぶ鉄柵を張り巡らすなど保護にも力が入る。

私は昨年、研究所長に「モンゴル人の足跡化石専門家を育成しなくては」と持ちかけた。モンゴルの研究が発展するには、絶対にモンゴル人の専門家が必要だからだ。こうしてメインバヤル氏が手をあげ、2015年夏、私は現場で1週間かけて恐竜足跡学

若手研究者育成の成果

を彼に伝授した。その後彼は研究と保護、そして普及教育活動を進めてきた。

その成果の一つの表れが今回の足跡化石発見である。日本とモンゴルが協力することで若い人が育つ。それを見て私は素直にうれしい。これも学術成果に劣らない組織的な成果である。これが基になって新しい学術成果につながるのだ。林原に引き続き、今度には岡山理科大が大学としてモンゴルとの協力を実行する番である。

(岡山理科大教授)

＝ 随時掲載